

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-51C	17-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Facial flushing after alcohol intake as a predictor for a high risk of synchronous or metachronous cancer of the upper gastrointestinal tract.</p> <p>同時性あるいは異時性の上部消化管がん高リスク予測因子としてのアルコール摂取後の顔面紅潮</p>		
執筆者		
Harada H, Shinohara S, Takebayashi S, Kikuchi M, Fujiwara K, Michida T, et al.		
掲載誌		
Jpn J Clin Oncol. 2017 Dec 1;47(12):1123-1128. doi: 10.1093/jjco/hyx150.		
キーワード	PMID	
顔面紅潮, 上部消化管がん, アルコール摂取	29136221	
要 旨		
背景：		
<p>日本ではアルコール軽度摂取後の顔面紅潮が不活性アルデヒドデヒドロゲナーゼ-2 (ALDH2) のヘテロ接合性と関連するという多くの報告がある。ALDH2 が不活性の人は野生型 ALDH2 の人に比べ、アルコールに関連した口腔、咽頭および食道がんのリスクが高い可能性がある。本研究の目的は、口腔や咽頭扁平上皮癌のあるフラッシャー（軽度飲酒で顔面が紅潮する人）において上部消化管（UGI）の同時性や異時性癌のリスクが高いかどうかを調べることである。</p>		
方法：		
<p>口腔および咽頭がんの治療を受けた患者においてカルテのレビューと 285 人へ送付したアンケートにより後ろ向き研究(retrospective study)を実施した。フラッシャーあるいは非フラッシャー、喫煙者（≥ 20 パック年；1 パック年=1 日タバコ 20 本）あるいは喫煙者、飲酒者（週 14 単位以上のアルコール消費；1 単位= 22 g）あるいは非飲酒者として分類される 150 人の患者（52.6%）から回答を得た。これらの因子と UGI における二次原発癌（SPC）の発生との関連を調べた。</p>		
結果：		
<p> Kaplan-Meier 分析によると、フラッシャーと飲酒者において 5 年で有意な UGI の SPC 増加があったが、喫煙との関連はなかった。多変量解析では、潮紅の経歴は UGI の SPC と有意に関連が認められた (HR 2.64, 95% CI 1.25-5.52, P = 0.0109) が、喫煙やアルコール消費とは関連がなかった。</p>		
結論：		
<p>アルコール摂取後の顔面紅潮の経験に関する単純インタビューは、UGI の同期または異時性の癌のリスクが高い患者を特定するのに有用である可能性がある。</p>		